

テーマ：“キリストの十分性”を惑わせる偽りの教えはどんなものだったか？

○十分性を脅かす偽りの教え：三つの危険な教え

1. 律法主義(16-17)
2. 神秘主義(18-19)
3. _____(20-23)

「(禁欲主義とは)厳しい自己放任、自己否定、さらには自己犠牲によって聖さを達成しようとする試みである。」

●禁欲主義を拒むべき三つの理由：

- 1) _____(20-21)

「すぎるな」

「味わうな」

「さわるな」

※1 コリント 9:26-27

「ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません。私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。」

2) _____(22)

※ヨハネ 6:27

「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」

※マルコ 7:6-8(cf. マタイ 15:9; イザヤ 29:13-14)

「イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。彼らが、わたしを拜んでも、むだなことである。人間の教え(戒め)を、教え(教え)として教えるだけだから。あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。』

「私はキリスト教福音派の教会で育ちましたが、そこではクリスチャンが常に避けなければならない特定の事柄があると言われ、これらのタブーを遵守していれば、仲間として受け入れられるだけでなく、実際に神を喜ばせることになるかと教えられました。クリスチャンは酒を飲んではいけない、ダンスをしてはいけない、タバコを吸ってはいけない、映画に行ってはいけない、トランプをしてはいけない、小説を読んではいけない、と教えられました。これらの禁止事項は、たいいてい私たちに対して叩きつけられました。これらの事柄のいくつかを控えることが、霊の鍛錬として完全に適切であることは否定しませんが、何かを辞めること自体が神に喜ばれるという考えは間違いなのです。」(レイ・ステッドマン)

※Iコリント 10:31

「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」

3) _____(23)

「禁欲主義的な規則は、神への献身、謙遜、称賛に値する肉体の鍛錬に見えるという点で、多くの人々にとって知恵のように見えるかと教えられています。しかし、パウロはこれらの規則は本当の知恵とは何の関係もなく、彼らが表現しているように見える礼拝も謙虚もどちらも偽りであると断言しています。彼の最終的な評価は、禁欲主義は惨めな失敗であるというものです。表面的には霊的勝利への道に見えるかもしれませんが、実際はそうではありません。キリスト教は処方箋の宗教ではなく、イエス・キリストとの生きた関係の宗教なのです。」(カーティス・ヴォーン)

※ガラテヤ 2:20

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」